

地域の名産でまち彩り

上富良野高 ラベンダー定植



心を養った。

同行事は、平成22年度から続く伝統行事。生徒数減少などの影響で同校存続の危機が迫った当時、上富良野高を中心に地域の特色ある活動を支援していかうと、地域住民で組織された「上富良野高サポーターズスクラ

【旭川発】上富良野高校（森雅義校長）は23日、同校校舎前庭でラベンダー定植作業を実施した。写真

上富良野高サポーターズスクラブと共同で行う伝統行事で、3年生22人が参加。生徒たちは、上富良野町や富良野市などで構成する「ふらのエリア」名産のラベンダーに触れるとともに、自然環境を大切にする

行事の一環で実施して

り、ロンクホームルーム（LHR）の時間を活用。校舎前庭に花を植え、気持ちの良い登下校を迎えられる環境を整えるとともに、花の手入れを通じて、自然環境を大切にする心を育てることを目的としている。

当日は、同校3年生のほかに、上富良野高サポーターズスクラブの角波光一さんと元上富良野町教委教育長の中澤良隆さんが指導役として参加した。

冒頭、前年度卒業生が植えた場所を草刈りする班と自分たちが植える場所の土を整える班に分かれて作業を実施。間違えてラベンダーを抜かないように細心の注意を払うなどしながら、生徒同士和気あいあいと行動した。

最後に、代表生徒があいさつ。ラベンダーの苗を植える作業が思ったより大変だったことを話し「農業のありがたみが実感できた」と謝意を述べた。

花岡来夢さんは「作業が大変で膝が痛くなったが、畑仕事は楽しかった。きれいな花を咲かせてほしい」と感想を話した。

角波さんと中澤さんは「こういった活動を通じて生徒が地域に愛着を持ち、町を出ても地域を思う気持ちが持ってもらえたら」「ラベンダーは20年生きるから、20年後も見に来てくれれば」と、活動に込める思いを話した。